



## 定例研究会報告要旨

第1936回(10月8日)

### 食料の総輸入量・距離(フード・マイレージ)とその環境に及ぼす負荷に関する考察

(関東農政局) 中田 哲也\*

#### 1. 背景と課題の設定

わが国は世界最大の食料輸入国であり、国内における食料供給基盤のぜい弱化が進行しているなか、わが国の食料供給のあり方について様々な観点からの検討が求められている。また、近年、国民の間には食品の品質や安全性に対する関心・懸念が大きく高まっており、この背景には「食と農の距離」の拡大という事情があると言われているが、その距離の計測を試みる指標はこれまで開発されていない。さらには、わが国の大量・長距離の食料輸入が地球環境に及ぼす影響については、これまで試算的にも明らかとされていない。

本研究は、輸入食料の量および輸送距離を総合的・定量的に把握する「フード・マイレージ」という指標を提示し、これらの議論に資することを目的とするものである。

#### 2. 概念と計測結果

フード・マイレージとは、輸入相手国別の食料の輸入量に当該国からわが国までの輸送

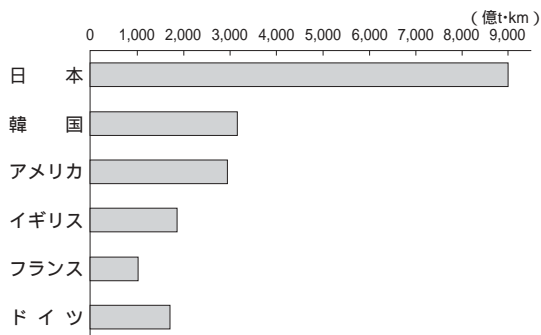


図 各国のフード・マイレージの比較

距離を乗じ、その数値を累積することにより求められるもので、単位はt・km(トン・キロメートル)で表示される。

2001年におけるわが国の食料輸入総量は合計で約5,800万tであるが、国毎の輸入量に輸送距離を乗じ累積したフード・マイレージを計測すると、約9,000億t・kmとなる。なお、この水準はわが国国内における1年間の総貨物輸送量の約1.6倍に相当する。

諸外国の数値をわが国と比較すると、韓国およびアメリカは3~4割、イギリスおよびドイツは約2割、フランスは1割強となっている。これを輸入量と平均輸送距離に分割してみると、わが国の食料輸入は、その量の大きさもさることながら、諸外国に比べてかなりの長距離(平均で約1万5千km)を輸送されているという特徴があることがわかる。

次に人口1人当たりのフード・マイレージをみると、韓国はわが国に近い水準となる(9割強)が、イギリスは約半分、フランスおよびドイツは約3割、米国は1割台の水準に過ぎない。

さらに、わが国のフード・マイレージは、特定の品目(穀物、油糧種子等)や輸入相手国(米国等)に偏っているという特徴がある。

#### 3. 輸入食料の輸送に伴う環境負荷の試算

わが国の輸入食料の輸送に伴い排出されるCO<sub>2</sub>の量を試算すると16.9百万tとなる。これは、わが国内における食料輸送に伴うCO<sub>2</sub>排出量(9百万t)よりも相当大きな値であり、わが国の輸入食料の長距離大量輸入は地球環境に相当の負荷を与えていることが推測される。

#### 4. 今後の課題

今回計測したフード・マイレージには国内における食料輸送の観点が含まれておらず、今後、輸入食料のみならず国産農水産物を含めた食料全体について検討していくことが必要であろう。

注. \*前 政策研究調整官.